

～Thank you～

谷地南部小学校
校内研究だより
2024. 2. 13
No.18 文責 伊藤

授業づくりを考える

5年生を前に、(サ)リーダーとして恥ずかしくない学び方や過ごし方ができる4年生集団にして来年度に送り出さないといけないと思いつつ、全員がその基準に達していないと感じる今日この頃です。そんな中、先日安達先生と少し(熱く?)お話しさせていただいたことを書きます。

(安達先生、長い時間ありがとうございました。校長先生、教頭先生、遅くまで残ってしまい申し訳ありません。)

4年生は、単元内自由進度学習や複数教科選択学習などを通して、以前より個別最適に学ぶことができるようになってきたと思います。学力向上の面で現段階において課題が残っているのは、教育をする環境に身を置いている者として、今後さらに研鑽を積んでいかなければいけないと思います。その上で、安達先生と話をして考えたことは以下の通りです。

授業づくりは、学級づくり(学級経営)である

理科をもっていただいている空き時間に5年生や6年生の授業を見に行くと、色んな子ども達がいって私語が全くないわけではないものの、授業の流れから大きく逸れることなくみんなが学習に取り組んでいるように感じます。何故なのかと考えた時に、お二方とも(もちろんこれまでの担任の先生方も)学級が落ち着いていて、子どもたち同士の関係も担任と子どもの関係もいいのだと思いました。安達先生は、「菅野先生は、子ども達の話をよく聞いてくれるんだよね。」と言っていましたし、秀樹先生は、ご存じのように子ども達にたくさんのチャレンジをさせ、頑張りを認め、困った時には最終的に包んでくれる包容力と安心感があります。そこで次に考えたのが、以下のことです。

学級づくり(学級経営)は、児童理解である

やはり、学級が落ち着くためには、相手(子ども)の事をよく知らないといけないのだと感じました。菅野先生は、「子どもの話をよく聞いてあげる」という方法で迫り、秀樹先生は、「子ども達に任せて、認め、支える」という方法で迫っているのだと思います。私の迫り方は、「子どもと一緒に遊んで、子ども達のいろんな姿を知る」だと思います。ただ、クラスの全員が体を動かして遊ぶことが好きなわけではないので、そういった子ども達とも時間を共にして、彼らをより理解できるように頑張っていきます。

